

○上天草市病院事業臨時職員取扱要綱

制定 平成28年3月11日病院事業管理者決裁

改正 平成29年9月28日病院事業管理者決裁

改正 平成31年2月26日病院事業管理者決裁

上天草市病院事業臨時職員取扱要綱

(目的)

第1条 この要綱は、地方公務員法（昭和25年法律第261号）第22条第5項に規定する臨時的に任用される職員（以下「臨時職員」という。）の任用、賃金、勤務時間、休暇その他の身分取扱いに関し必要な事項を定めることを目的とする。

(任用方法)

第2条 臨時職員は、選考により任用する。

(任用手続)

第3条 上天草市病院事業管理者（以下「管理者」という。）は、任用を決定した場合は、臨時職員任用通知書（様式第1号）及び労働条件通知書（様式第2号）を交付するものとする。

(任用期間)

第4条 臨時職員の任用期間は、6月を超えない範囲内で管理者が定める。

2 任用期間の更新は、行わないものとする。ただし、業務の遂行上やむを得ない場合においては、1回に限り任用期間が6月を超えない期間で更新することができる。

(解職)

第5条 管理者は、臨時職員が次のいずれかに該当する場合は、任用期間中であっても解職することができる。

- (1) 勤務実績が著しく不良な場合
- (2) 心身の故障のため、職務の遂行に支障があり、又はこれに堪えない場合
- (3) 職の改廃又は予算の減少により廃職又は過員を生じた場合
- (4) 全体の奉仕者たるにふさわしくない非行があった場合
- (5) 前各号に規定する場合のほか、その職に必要な適格性を欠く場合

(勤務時間及び休憩時間)

第6条 臨時職員の勤務時間及び休憩時間は、上天草市病院企業職員就業規程(平成23年病院事業管理規程第2号)の適用を受ける者の例による。

(年次有給休暇)

第7条 臨時職員に対して、管理者が別に定める基準に基づき、年次有給休暇を付与する。

2 前項の年次有給休暇は、1日又は1時間を単位として付与する。

(年次有給休暇以外の休暇)

第8条 臨時職員に対して、別表に定める年次有給休暇以外の休暇を付与する。

2 前項の年次有給休暇以外の休暇は、無給とする。

(賃金)

第9条 臨時職員の賃金は、職種、職務の内容その他勤務に応じたものとし、管理者が別に定める基準により支給する。

(賃金の減額)

第10条 臨時職員が勤務を要する時間に勤務しなかった場合は、勤務しない時間1時間につき勤務1時間当たりの賃金額を減額するものとする。

(旅費)

第11条 臨時職員が公務のため出張したときは、旅費を支給する。

(通勤手当)

第12条 通勤手当は、上天草市病院企業職員の給与の種類及び基準に関する条例(平成19年上天草市条例第26号)第9条及び上天草市病院企業職員の給与の種類及び基準に関する条例施行規則(平成19年規則第13号)第4条の規定に基づき支給する。

(時間外勤務手当)

第13条 正規の勤務時間を超えて勤務することを命ぜられた臨時職員には、正規の勤務時間を超えて勤務した全時間に対して、管理者が別に定める勤務1時間当たりの賃金の額に100分の125(その勤務が午後10時から翌日の午前5時までの間である場合は、100分の150)を乗じて得た額を時間外勤務手当として支給する。

(休日勤務手当)

第14条 休日に勤務を命ぜられた臨時職員には、その勤務した全時間に対して、管理者が別に定める勤務1時間当たりの賃金の額に100分の135（その勤務が午後10時から翌日の午前5時までの間である場合は、100分の160）を乗じて得た額を休日勤務手当として支給する。

（特殊勤務手当）

第15条 特殊勤務手当については、上天草市病院企業職員特殊勤務手当規程（平成20年病院事業管理規程第1号）に基づき支給する。

（当直手当）

第16条 当直を命ぜられた臨時職員には、上天草市病院企業職員の当直勤務に関する要綱（平成25年4月22日病院事業管理者決裁）に基づき支給する。

（期末手当）

第17条 期末手当は、5月1日及び11月1日にそれぞれ在職する夜間勤務を行う臨時職員（警備員を除く。）に対し、支給することができる。

2 期末手当の額は、期末手当基礎額に100分の50を乗じて得た額に、基準日以前6箇月以内の期間におけるその者の勤務期間の区分に応じ、次の各号に定める割合を乗じて得た額とする。ただし、臨時職員として勤務した以外の期間は、勤務期間に通算しないものとする。

（1） 6箇月 100分の100

（2） 5箇月以上6箇月未満 100分の80

（3） 3箇月以上5箇月未満 100分の60

（4） 1箇月以上3箇月未満 100分の30

3 前項の期末手当基礎額は、それぞれの賃金日額に20を乗じて得た額とする。

（賃金等の支給日）

第18条 臨時職員の賃金、時間外勤務手当、休日勤務手当、通勤手当、特殊勤務手当及び当直手当は、当該月の分を翌月10日に支給する。ただし、その日が日曜日、土曜日又は国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「祝日法よる休日」という。）に当たるときは、その日前においてその日に最も近い日曜日、土曜日又は祝日法による休日でない日に支給する。

2 臨時職員の期末手当の支給日は、管理者が別に定める。

(社会保険等)

第19条 臨時職員の社会保険等の適用については、健康保険法(大正11年法律第70号)、厚生年金保険法(昭和29年法律第115号)、雇用保険法(昭和49年法律第116号)及び介護保険法(平成9年法律第123号)の定めるところによる。

(公務災害補償)

第20条 臨時職員の公務上の災害及び通勤による災害に対する補償については、労働者災害補償保険法(昭和22年法律第50号)の定めるところによる。

(雑則)

第21条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、管理者が別に定める。

附 則

この要綱は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成31年4月1日から施行する。

様式第1号（第3条関係）

臨時職員任用通知書	
(被任用者氏名)	
(発令事項) 上天草市病院事業臨時職員取扱要綱に基づき次のとおり任用 します。	
(職 名)	
(所属場所及び勤務場所)	
(賃金額)	月額・日額 円
(任用期間)	年 月 日から 年 月 日までとする
(発令年月日)	年 月 日
(任命権者)	上天草市病院事業管理者 印

様式第2号（第3条関係）

労働条件通知書

年 月 日

様

上天草市病院事業管理者

- 1 所 属
- 2 勤務場所
- 3 勤務内容
- 4 任用期間 年 月 日～ 年 月 日
(任用更新の有無・・・・・・・・
更新の基準・・・勤務成績、態度、経営状況)
- 5 勤務時間等
- 6 休 日
- 7 時間外の勤務
- 8 休日勤務
- 9 賃 金
- 10 賃金の支給日
- 11 賞 与
- 12 昇 給
- 13 退職手当
- 14 有給休暇
- 15 社会保険の適用
- 16 雇用保険等の適用
- 17 その他留意事項

次に該当する場合は、解雇することがあります。

- (1) 勤務実績が著しく不良な場合
- (2) 心身の故障のため、職務の遂行に支障があり、又はこれに堪えない場合
- (3) 職の改廃又は予算の減少により廃職又は過員を生じた場合
- (4) 全体の奉仕者たるにふさわしくない非行があった場合
- (5) 前各号に規定する場合のほか、その職に必要な適格性を欠く場合

別表（第8条関係）

項	事由	期間
1	職員が選挙権その他公民としての権利を行使する場合で、その勤務しないことがやむを得ないと認められるとき。	必要と認められる期間
2	職員が裁判員、証人、鑑定人、参考人等として国会、裁判所、地方公共団体の議会その他官公署へ出頭する場合で、その勤務しないことがやむを得ないと認められるとき。	必要と認められる期間
3	職員が骨髄移植のための骨髄液の提供希望者としてその登録を実施するものに対して登録の申出を行い、又は骨髄移植のため配偶者、父母、子及び兄弟姉妹以外の者に骨髄液を提供する場合で、当該申出又は提供に伴い必要な検査、入院等のため勤務しないことがやむを得ないと認められるとき。	必要と認められる期間
4	<p>職員が自発的に、かつ、報酬を得ないで次に掲げる社会に貢献する活動（専ら親族に対する支援となる活動を除く。）を行う場合で、その勤務しないことが相当であると認められるとき。</p> <p>ア 地震、暴風雨、噴火等により相当規模の災害が発生した被災地又はその周辺の地域における生活関連物資の配布その他の被災者を支援する活動</p> <p>イ 身体障害者支援施設、特別養護老人ホームその他の主として身体上若しくは精神上の障害がある者又は負傷し、若しくは疾病にかかった者に対して必要な措置</p>	一の年において5日の範囲内の期間

	を講ずることを目的とする施設であって 管理者が定めるものにおける活動	
5	職員が結婚する場合で、結婚式、旅行その他の結婚に伴い必要と認められる行事等のため勤務しないことが相当であると認められるとき。	管理者が定める期間内における連続する5日の範囲内の期間
6	妊娠中の女性職員が母子保健法（昭和40年法律第141号）第10条に規定する保健指導又は同法第13条に規定する健康診査を受けるため請求した場合	妊娠23週（1月は28日として計算する）までは4週間に1回、妊娠24週から35週までは2週間に1回、妊娠36週から分娩までは1週間に1回、分娩後1年まではその間に1回（医師等の特別の指示があった場合には、いずれの期間についてもその指示された回数）とし、そのつど必要と認められる期間
7	女性職員が8週間（多胎妊娠の場合にあっては14週間）以内に出産する予定である場合	出産の日までの請求した期間
8	女性職員が出産した場合	出産の日の翌日から8週間を経過する日までの期間
9	職員が生後満3年に達しない子を育てる場合	1日2回各々60分。ただし、通勤距離に応じ120分を上限とする。（男性職員にあっては、その子

		<p>の当該職員以外の親が当該職員がこの項の休暇を使用しようとする日におけるこの項の休暇（これに相当する休暇を含む。）を承認され、又は労働基準法(昭和22年法律第49号)第67条の規定により同日における育児時間を請求した場合は、1日2回それぞれ60分（通勤距離に応じ120分を上限とする。）から当該承認又は請求に係る各回ごとの期間を差し引いた期間を超えない期間)</p>
10	<p>女性職員が生理日の就業が著しく困難である場合</p>	<p>連続する2日の範囲内の必要と認められる期間</p>
11	<p>職員の妻（届出をしないが事実上婚姻関係と同様の事情にある者を含む。）が出産する場合で、職員が妻の出産に伴い必要と認められる入院の付添い等のため勤務しないことが相当であると認められるとき。</p>	<p>職員の妻が出産するため病院に入院する等の日から当該出産の日後2週間を経過するまでの間における2日の範囲内の期間</p>
12	<p>職員の妻が出産する場合であってその出産予定日の8週間（多胎妊娠の場合にあっては、14週間）前の日から当該出産の日後8週間を経過する日までの期間にある場合に</p>	<p>当該期間内において、5日の範囲内の期間</p>

	<p>において、当該出産に係る子又は小学校就学の始期に達するまでの子（妻の子を含む。）を養育する職員が、これらの子の養育のために勤務しないことが相当であると認められるとき。</p>	
13	<p>中学校就学の始期に達するまでの子（配偶者の子を含む。以下この項において同じ。）を養育する職員が、その子の看護（負傷し、若しくは疾病にかかったその子の世話又は疾病の予防を図るために必要なものとして別に定めるその子の世話を行うことをいう。）のため勤務しないことが相当と認められる場合</p>	<p>一の年において子1人につき5日（その養育する中学校就学の始期に達するまでの子が2人以上の場合にあっては10日）の範囲内の期間</p>
14	<p>職員の親族が死亡した場合で、職員が葬儀、服喪その他の親族の死亡に伴い必要と認められる行事等のため勤務しないことが相当であると認められるとき。</p>	<p>上天草市病院企業職員就業規程別表第2に規定する範囲内の期間</p>
15	<p>職員が父母の追悼のための特別な行事（父母の死亡後管理者の定める年数内に行われるものに限る。）のため勤務しないことが相当であると認められる場合</p>	<p>1日の範囲内の期間</p>
16	<p>地震、水害、火災その他の災害により職員の現住居が滅失し、又は損壊した場合で、職員が当該住居の復旧作業等のため勤務しないことが相当であると認められる場合</p>	<p>原則として連続する7日の範囲内の期間</p>
17	<p>地震、水害、火災その他の災害又は交通機関の事故等により出勤することが著しく困難であると認められる場合</p>	<p>必要と認められる期間</p>

18	地震、水害、火災その他の災害時において、職員が退勤途上における身体の危険を回避するため勤務しないことがやむを得ないと認められる場合	必要と認められる期間
19	妊娠中の女性職員が妊娠障害のため勤務することが困難である場合	14 日を超えない範囲内でそのつど必要と認める期間
20	赴任のため勤務につけない場合	そのつど必要と認める時間
21	第 31 条第 1 項に規定する日常生活を営むものに障害がある者（以下この項において「要介護者」という。）の介護その他の別に定める世話をを行う職員が、当該世話をを行うために勤務しないことが相当であると認められる場合	一の年において 5 日（要介護者が 2 人以上の場合にあつては、10 日）の範囲内の期間
22	前各項に掲げるもののほか、管理者が特に必要と認める場合	その都度必要と認める期間